横浜市立 子安小学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

自分が好き　友だちが好き　学校が好き　まちが好き

◯ 自ら進んで問題を見つけ、考え、判断して取り組み、自分の見方や考え方を深めていく子どもを育てます。（知）
◯ 互いに認め合い、支え合いながら、安心して個性を発揮し、伸ばし高め合える子どもを育てます。（徳）
◯ 自分の健康に関心をもち、進んで健康保持に努めるとともに、心身ともにたくましく生きる子どもを育てます。（体）
◯ 自分が生活する地域「まち」について理解を深め、積極的に地域「まち」と繋がっていく子どもを育てます。（公）
◯ 多様な文化や伝統に積極的に関わり、よさを受け容れ、視野を広げ、進んで行動・実践していく子どもを育てます。（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
学び続ける力 健やかな心と身体 新しい時代を生き抜く対応力	学び続けようとする力 進んで健康を保持できる力 変化に対応する力

中期取組目標

3年間を通して、子ども・保護者・地域・教職員にとって「魅力あふれる子安小学校」を創っていきます。

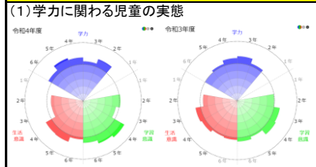
◯ 子ども一人ひとりが学習の楽しさや喜びを実感できる授業を保護者・地域とも連携して創り出し、学力向上を目指します。
◯ 子どもや教職員が安心して気持ちよく生活や学習ができる環境を整え、楽しく充実した学校生活を送れるようにします。
◯ 「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して視野を広げ、問題解決力や対応力を高めていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 担当　重点研・生活総合	①校内重点研究を中心とした教材研究・授業づくりを通し、子どもたちの主体性を高める。 ②探究課題を追求する活動を通して、問題解決的な学習を繰り返し、児童が主体的に次の課題を見付け解決する力を高める。

学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる児童の実態



令和3年度4年度の調査結果示す。なお、それぞれの調査結果は前年度の学力を測定している。

◯横浜市の学力・学習状況調査では、学力・学習意識どちらも多くの学年が市平均を上回っている。
◯生活意識では、低学年において市平均を下回っている傾向にあった。「分からないことがあったときの考え直す」「最後まで諦めずに取り組む」といった学習に対する意識における項目において課題が見られた。また、「自分の考えを相手に伝えようとする」といった伝える意識における項目においても課題が見られた。

（2）これまでの学校の取組状況
◯校内重点研究を通して、子どもが数学的な見方・考え方を働かせる対話的な授業づくりに取り組み、教師の授業力向上が見られた。
◯校内研修を通して、総合的な学習の時間における探究的な学習の進め方についての周知を図ったり、各学級の単元構想を校内で共有したりした。

今年度の目標

◯算数科の授業を通して、子どもが自ら進んで学び続ける姿勢を育てる。
◯生活科や「総合的な学習の時間」を軸として、探究的・教科横断的な学習を展開する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	◯算数科の授業を軸とし、自分の思いを高めるための問いの設定や問い返しなどの手立てを講じることで、学ぶ楽しさを実感できるようにする。 ◯校内研修を通して、教員一人ひとりの授業づくりへの目標を設定し、目指す子ども像の実現に向けて全校の意識を高める。 ◯全職員参加の算数科の授業研究会を通して、教員一人ひとりの授業力向上を図る。（年間） ◯総合的な学習の時間に関する校内研修を通して、単元の立ち上げ方や、探究的な学習に適した題材への理解を深める。 ◯生活科では、1年間の単元づくりを行い、学年間で共有することで計画的に学習を進められるようにする。
下半期	◯算数科の授業を軸とし、子どもの思いを高めながら、一人ひとりの学びへ向かう姿勢を育てられるための教材研究を行うことで、学ぶ楽しさを実感できるようにする。 ◯PDCAのサイクルや専門家との関わりを大切にしながら総合的な学習の単元を構想し、探究的な学習活動を展開する。 ◯生活科では、子どもの思いを大切にしながら教科横断的な学習活動を展開する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当　道徳部・人権環境	①道徳の時間や各教科の授業において、自他を思いやる心を育てていく。 ②人権月間に限らず、思いやりの心や多様性を認めることの大切さを学ぶ機会を各学年で設けていく。 ③年間を通して「挨拶運動」を全校で実施し、進んで挨拶をする習慣を養っていく。

豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる児童の実態
◯道徳科や各教科の学習を通して、自他を思いやる心を育てていけるような指導を行っている。児童の自己評価では、**友達や周囲の人に対して優しく親切にすることができているかという項目で、ほとんどの児童ができていると感じており**、指導の成果が表れていると考える。
◯**全クラスで年間1度の道徳科の授業参観**を行うことで、保護者の道徳教育に対する理解の一助となった。
◯人権月間や学年初めの時間を中心に、学年の実態に応じた授業を行い、違いを認め合う機会をつくることができた。
◯毎月の挨拶目標に向けての取組や「挨拶運動」を通して、挨拶の習慣化をねらった。**児童の自己評価では、「進んであいさつをしているか。」という項目で8割近くが「そう思う」と回答しており、一定の成果は見られた**が、**「そう思わない」という回答が他の項目に比べ多かった**。また、**職員の組織内評価においても、進んであいさつをする習慣を養っていくことが「概ねできた」と回答した職員がほとんどであった**一方で、**現状では十分でないとの意見も多く**、さらなる習慣化に向け、取組の改善が必要である。

（2）これまでの学校の取組状況
◯道徳科の授業参観を全学級年1回以上実施し、心の教育を進めている。
◯懇談会や個人面談、あゆみ等で日頃行っている道徳教育や道徳科の学習の取組について発信し、家庭と共通理解、連携を図って指導にあたるようにしている。
◯挨拶目標を作り、月ごとに視点を変えて指導することで、挨拶のよさを実感できるようにしている。

今年度の目標

◯進んであいさつを行う児童を増やし、自他を思いやる心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

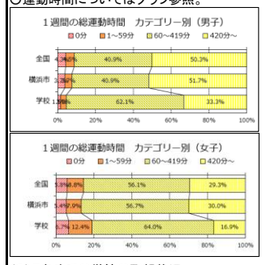
上半期	◯**道徳科や各教科・領域等の授業**において、自他を思いやる心を育てていくようにする。（年間） ◯保護者の方に道徳教育に対する理解を深めてもらい、家庭と共通理解、連携を図っていくことができるようにするために、**6月の土曜授業参観で全クラスが道徳科の授業を**公開する。（年間） ◯**登校指導時や校内において職員が、率先して挨拶**を行い、学校全体で挨拶をしていこうとする雰囲気づくりをする。（年間） ◯**月ごとに視点を変えて設定している挨拶目標**に対して、月末に個人でふり返りを行い、挨拶への意識を高める。（年間） ◯**生活委員会で、昇降口でのあいさつ運動やあいさつの大切さを伝える活動**などに取り組む。（年間） ◯よいとこみつけなど、子どもの自己肯定感が上がるような活動を行う。（年間） ◯いじめに関するアンケートや生活アンケートの結果をもとに、子どもの実態を把握する。実態に応じて「**子どもの社会的スキル横浜プログラム**」等を使って指導をする。 ◯どの子も安心して、よりよい学校生活が送れる学級運営に生かせるように、**夏休みの教員研修で講師を招いて「Well-being」**について学ぶ。
下半期	◯下半期にもいじめに関するアンケートや生活アンケートを取り、その結果を比較し、子どもの実態を把握する。実態に応じて「**子どもの社会的スキル横浜プログラム**」等を使って指導をする。 ◯人権テーマ「子ども一人ひとりがお互いの良さや違いを尊重し、認め合い励まし合うことができる子の育成」の実現にむけて、**人権月間に全クラスで授業実践**を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
体育・健康 担当　体育部・保健部	①体育学習や外遊びを充実させ、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ②健康について学ぶ機会を設け、自己の生活を振り返り、健康に過ごすきっかけとする。

健やかな体に関わる本校の状況

（1）健やかな体に関わる児童の実態
◯横浜市体力・運動能力調査の結果では、市平均と比べて男子は低い傾向、女子はやや低い傾向にある。男子は、特に、握力、立ち幅跳びが低く、上体起こしは高い。女子も同様に、握力、立ち幅跳びが低い。また、反復横跳びは高い結果だった。
◯体格調査によると、市平均と比べて男子に肥満傾向が見られる。
◯「運動が好き」「体育が楽しい」という児童は、市平均より低い傾向が見られ、女子は特に低い。
◯運動時間についてはグラフ参照。



（2）これまでの学校の取組状況
◯長年、クラスごとの長縄に取り組んできたが、感染症の影響を受け、R2年度より短縄に変更している。同じ短縄チャレンジカードを使って級達成者数の経年変化を見ている。
◯短縄を継続して行ったことで、短縄チャレンジが浸透し、400人以上が10級をクリアした。しかし、クラスや個人によって取組の意識に差が出てしまったことが課題であった。

今年度の目標

◯体を動かすことを楽しむ態度を育てる。
◯自分の健康について関心をもつ態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	◯体育の授業をきっかけにして、運動が好きになれるよう工夫していく。 ◯児童が外遊びをするきかっけとなるよう、クラス遊びを設定したり、職員が率先していっしょに外に出たりする。 ◯コロナ禍以前に取り組んでいた長縄運動を復活させる。長縄記録会、長縄チャレンジタイム（記録会前の3日間の中休み）を設定する。全校で記録を合計して指標とする。 ◯R2～R4年度の中心的取組とした短縄チャレンジカードは、引き続き年度当初に配付し、体力づくりに生かしていく。 ◯学校保健委員会は、代表者だけでなく、全校児童が自分のこととして考える機会をもてるように工夫して設定する。テーマは、保健委員会を中心に児童の興味を大切に決めていく。（年間）
下半期	◯運動会を生かして、運動への意欲・関心を高めるとともに、体育で培った資質や能力の向上に努める。 ◯地域主催のキラキラスポーツ大会、キンボール大会など、地域との連携を大切にしながら、スポーツへの関心を高める取り組みを推進する。（開催は感染症の状況による） ◯長縄運動の中でクラスや個人で課題を見付けたり、よりよい練習方法を考え実践したりできるよう長縄記録会やチャレンジタイムの時間を設ける。